

令和2年8月18日

経済学部生・経済学部開講科目履修者の皆さんへ

神戸大学経済学部長
中西 訓 嗣

令和2年度後期経済学部開講科目の授業実施及び図書館の「特別利用」について

令和2年8月11日付で、神戸大学全学ウェブサイト、「令和2年度後期の授業実施について」が掲載されました。https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/sub_student/2020_08_11_02.html

これを受けて、経済学部では、後期の授業が開始される10月1日から、「神戸大学の活動制限指針」のうち「授業（講義・演習・実習）」及び「学生の入構」が「レベル2」から「レベル1」に引き下げられた場合の授業の実施について検討しています。確定的な方針は、9月上旬に全学で最終的なレベル判断がされてから決定し、発表する予定ですが、学生の皆さんの受講準備のために、早めに見通しをお伝えしておいたほうがよいと考え、現時点での検討状況をお知らせします。

結論から申しますと、仮に全学の活動制限指針が「レベル1」に引き下げられたとしても、後期・3Q・4Q開講科目の対面授業の再開は難しく、引き続きほぼすべての授業を遠隔授業として実施せざるをえないと考えています。私たちも、教員が学生の反応を見ながら授業をし、学生同士が顔を突き合わせて議論を交わすことのできる場をととても大切に思っており、対面授業の再開に向けていろいろな可能性を探っています。対面授業を望む学生の皆さんの声も届いています。しかし、他方で、学生の皆さんの健康を最優先に考え、感染防止に万全を期すために、十分な大きさの教室の確保、対面授業と遠隔授業が混在する場合の学内における遠隔授業の受講場所（アクセスポイント）の確保、食事場所の確保、4学部・研究科の学生が共用する六甲台第1キャンパスの動線の確保、通学に利用するバスの混雑などについて、満足のゆく解決が得られるまでは、対面授業を再開すべきでないと考えています。残念ながら、後期開始までに、これらの課題がすべて解決されることは、難しい状況です。

対面授業の再開を心待ちにしていた学生の皆さんには、厳しい見通しのお知らせとなってしまいました。私たちが教員は、前期の経験と反省を踏まえ、引き続き、遠隔授業の質の向上に努めます。また、対面授業にはない遠隔授業の特徴を活かして、新しい双方向・多方向型授業の可能性も模索していきます。学生の皆さんにご理解をお願いするとともに、後期においても、引き続きモチベーションを持続して授業に取り組むことを期待します。

また、社会科学系図書館の利用につきまして、現在は大学院生のみ論文作成等のための「特別利用」を認めておりますが、後期からは学部生についても「特別利用」を認める方向で検討しております。

今後、新しいお知らせがある場合には、経済学部ウェブサイト、経済学部 Twitter (@kobe_econ)、うりぼーネットなどで随時告知しますので、主体的に情報収集を行ってください。また、他学部や国際教養教育院の開講科目については、それぞれの学部・院で方針が決定されますので、それぞれの学部・院のウェブサイト等を参照してください。

お問い合わせは、経済学部教務係までメールでお願いします。

econ-kyomu@office.kobe-u.ac.jp